

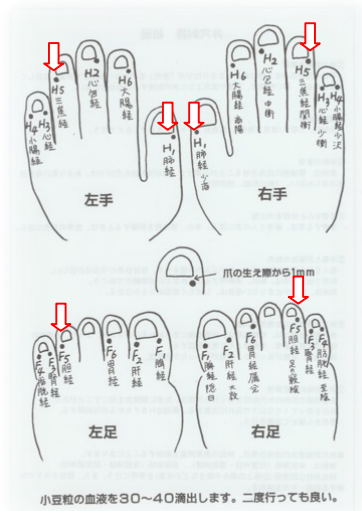
## 井穴刺絡（せいけつしらく）療法とは？

私が、初めて「刺絡療法」を知ったのは昨年、「子どもの漢方薬」という本でした。鼻出血治療のファーストチョイスに刺絡とありました。親指の爪の付け根の1mm外側に針を刺して、指から5~10滴ほどの血を軽く絞り出すという方法です。「不思議な事に驚くほど良く効きます」と書いてありましたので、早速、昨年9月から今日まで24、5例に実施しておりますが、やはり良く効いている印象です。

先日、その「刺絡療法」を行っている福岡市 ⇨

「ぎんなん治療院」の稲舂茂俊先生のレクチャーを受ける機会がありました。

東洋医学では、鍼灸師の先生方が「経絡」を使って、鍼（はり）やお灸で治療されています。その経絡には指先の末端「井穴（せいけつ）」というツボのグループが手足に12か所あります。各々のツボと各臓器と密接な関係があり、そこを刺激することにより治療しますが、少量の出血をさせることだけで、指圧の1,000倍以上の治療効果があるようです。



特にアレルギー症状は、副交感神経の過剰反応な状態といわれており、副交感神経を抑制する治療では、手足の薬指 H5 F5 を刺絡することになります。

副交感神経を異常興奮させる誘因は多数ありますが、甘い食べ物、油脂食品、間食（空腹が良い）、動物、ぬるいお風呂、長湯、着過ぎ、低気圧、運動不足、薬品、食物添加物、農薬などです。

逆に交感神経を刺激することが大事になり ⇨

### ★★★ 井穴刺絡のツボとその効用 ★★★

【交感神経を抑えるツボ】 H6・F4 発熱や高血圧など、全身にかかわる症状に

【副交感神経を抑えるツボ】 H5・F5 いわゆるアレルギー症状に

【心臓のツボ】 H3 動悸・頻脈など、心臓の症状に

【肺のツボ】 H1 風邪や肺炎など、呼吸器の症状に

【胃腸・膵臓のツボ】 左F1・F6 胃腸や膵臓など、消化器の症状に

【肝臓のツボ】 右F2・F6 飲み過ぎや肝炎など、肝臓の症状に

【腎臓・膀胱のツボ】 F3 腎臓や膀胱など、泌尿器の症状

ます。早起き、太陽光線にあたる、鍛える（運動、乾布摩擦）、飢える（空腹）テレビはダメ（行動が止まる、思考が止まる、会話が止まる）、水浴び（風呂上りに水シャワーで2分間浴びる、冷たいタオルで拭く）などが推奨されています。

つまりは子どもを野性的に育てるといことですかね。アレルギー症状は、余り過保護になり過ぎていて現代社会の歪みと言えます。

今後、当クリニックでも井穴刺絡療法をアレルギー疾患（アトピー、じん麻疹、鼻炎、喘息）に試みしてみるつもりです。（たまなは）